パプアニューギニア

PAPUA NEW GUINEA

フェブリナ号で巡る いいとこどりのクルーズ旅

MAP CLICK!

「秘境」と呼ばれるパプアニューギニア。
野生溢れるその国でもっとダイビングを楽しみたい！
そう思ったなら限定のクルーズで巡るのはどうだろう。
そこには驚きと感動がたくさん待っている。

PHOTO & TEXT :
TOMOHITO ISHIMARU

SORA
web magazine 2013.oct. vol.23

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
tsumishima.com
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp
© 2012
World Tour Planners Co.,Ltd.
All Rights Reserved.

驚き
SUPRISE

PAPUA NEW GUINEA

パプアニューギニア

リゾートからクルマで5分の奇跡

サプライズは最後の夜にやってくる。フェブリナ号のクルーズは最終日の夜、キンベ湾エリア唯一のダイビングリゾート「ワリンディ・プランテーション・リゾート」の桟橋に停泊し、リゾートのビュッフェディナーで締めくくられる。最終日とあってお酒も進むかもしれないが、ここはぜひ食後まで余力を残したい。この世のものとは思えない、自然が作り出す光のイリュージョンを楽しむために……。

それは蛍の光。一本のヤシの木に無数の蛍が群れ固まり、点滅を繰り返す。点滅のリズムは最初はバラバラなのだが、やがてお互いのタイミングがシンクロしていき、全ての蛍が一定のリズムで明滅を繰り返すようになる。それはまさにクリスマスイルミネーション。眺めていると、ここが熱帯雨林のど真ん中というのをしばし忘れてしまいそうだ。そして背景には無数の星が瞬き、自然の美しさと無限の宇宙を同時に感じる事ができる。このインパクトはニューギニアの海に負けないくらいのサプライズと言える。

この光のショーはリゾートの周りを囲むヤシの木プランテーションの片隅で行われる。クルマで行けば5〜10分。リゾートのスタッフに頼めば連れて行ってくれるので、ぜひ気軽にリクエストを。

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島
We World explorer

海 OCEAN

未開の海を独占できるということ

PAPUA NEW GUINEA

パプアニューギニア

大物を見られる海は世界中にたくさんある。圧倒的な魚群を誇る海もまた然り。しかしそのような海を毎回１グループで独占できるところはなかなかないのではないか……。

フェブリナ号が案内してくれる海はパプアニューギニアのニューブリテン島の北側にあるキンベ湾。ここを潜る方法としてはこのクルーズか、もしくはキンベ湾唯一のダイビングリゾート「ワリンディ・プランテーション・リゾート」からの日帰りトリップに参加する。そしてこちらはダイビングポイントは連携して決めているので、クルーズ組と日帰り組の鉢合わせはほとんどないのだ。

この２枚の写真は見事な魚群を楽しませてくれる「ブラッドフォード・ショール」のもの。ここはギンガメアジやバラクーダの群れが見物のキンベ湾エリアを代表するダイビングポイントのひとつであるが、潜るときは常に自分たちのグループのみという贅沢さ。眺めるもよし、ガンガン迫って写真を狙うのもよし。「魚群の渦に巻かれてみたい!」 という願いも高確率でかなえられる。手つかずの海をグループで独占できる!　これがこの海のだいご味と言える。

PAPUA NEW GUINEA
パプアニューギニア

67年前の傷跡。
そして生き物たちが棲む今

R ロマン ROMANCE

Wreck＝破損、破壊、残骸、難破…。冒険ロマンをかき立てるレックダイビングだが、そのほとんどが海底の沈船を目的に潜る。しかしキンベ湾のレックポイントには、レアな沈飛行機が見られる場所がある。ポイント名はズバリ「ゼロ」。そう、第二次世界大戦で活躍した日本軍のゼロ戦がほぼ原型を留めて海に沈んでいるのだ。

約 70 年前には大空を自在に飛び回ってアメリカ軍を苦しめ続けたゼロ戦。そのひとつがキンベ湾の湾内、水深10m のところに静かにたたずんでいる。地元の人の話ではこのゼロ戦は水上に不時着し、パイロットは陸に泳ぎついて無事だったというのだが、それが事実か否かは調べようもない。しかし当時の若い飛行兵がどんな思いで出撃し、沈みゆくゼロ戦を見たときの気持ちを慮ると…。日本人から薄れゆく戦争の記憶。普段の生活の中でそれを思い起こすこともないが、ゼロ戦の実物を実物を間近に、しかも水中でそれを眺めると、否が応にも心は揺さぶられる。

約70年もの歳月は少しずつ機体を海に同化させていく。コックピット脇に着いた大きなイソギンチャク。

PAPUA NEW GUINEA

パプアニューギニア

1、2、3、4！海の生きものたちが行く

ACTION 行動

ニューギニアの海は魚群、サンゴ、サメなどの大物といったワイドな印象が強いのだが、フェブリナ号のガイドはマクロにも強い。いや、根っから好きなのだろう。フェブリナ号では1日最大5本のダイビングができるが、内湾のポイントなど浅場でのダイビングでは60分超えは当たり前。取材時には90分超えも１度経験したほどだ。

フェブリナ号ではローカルガイドが海を案内してくれる。ニューギニア人は我々日本人と比べると“大雑把”というイメージを持っている方も多いはずだが（確かにそういう部分もあるのだが）、彼らのマクロ生物に対する情熱は半端ではなかった。かわいらしい生物を見せてダイバーが喜ぶ姿、喰らいついて写真を撮る姿を見ると意気に感じるのか、次々にマクロな生物を見せてくれる。

そんな彼らが撮らせてくれたのがこれらの写真。順番に、かわいらしいスパインチークアネモネフィッシュのシングル、ブチウミウシのペア、コシオリエビの仲間のトリオ、そしてツバメウオの幼魚のクワッド。生物を複数、そしてその数を増やしていけば当然撮影の難易度は上がるが、キンベ湾の海はそれを十分可能にしてくれる。生物が豊かで何度もチャンスがもらえるため、いつもより凝った写真を狙える状況になるのだ。知らず知らずのうちにフォト派ダイバーのステップをあげてくれる海。それがキンベ湾なのだ。